

【この活動の意図】

レッスンの題材は、建築家の坂茂（ばんしげる）さんの半生です。坂さんは、被災地を訪れ、被災者を救済を続けている建築家です。レッスンの内容を踏まえたタイトルを設定して、生徒にエッセイを書かせたいと考えています。エッセイは、自分の考えを相手に受け入れてもらうことを目的とした「論証文」タイプにしたいと考え、以下のようにしました。

“What is the most valuable occupation at the time of a disaster?” 「震災時に最も価値ある職業は何？」この場面で、目的別、段階的な生徒同士の対話を使って、エッセイ指導を進めようと考えました。

【対話1】 考えを整理するための対話

ポイント!

まずは、「自分が考える価値ある職業」と「そう考える根拠」をメモするよう伝えましょう。自分の考えを整理し、使える英語表現に落とし込ませた後で、ピアと対話（意見交換）をさせます。

⇒多様な答え、根拠に触れることで、考えや表現が整理されます。

⇒自分が使おうとした表現が相手に通じるかどうかの確認ができます。

【対話2】 対立意見を発見するための対話

ポイント!

論証文型の英文エッセイにおいては、対立する意見を覆すことで、自分の意見の正当性を高めることが求められます。日本人には少し抵抗のある発想ですが、英文エッセイ上達のため、少しずつ練習させましょう。やり方としては、【対話1】を数人のピアと繰り返すか、指名した生徒の意見をクラス全体で共有させます。その際、有力な対立意見を探しながらピアの意見を聞くよう指示し、有力な対立意見となるものを各自に探させます。

⇒対話を繰り返す中で、発話の流暢さが向上し、自主的な表現の改善も期待されます。

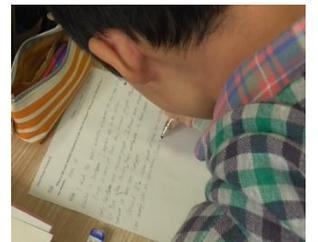
【対話3】 相互評価のための対話

ポイント!

対話1と2に基づいてエッセイを書かせたあとは、完成したエッセイの読み合いを促します。読んだら、その感想を英語で伝え合えます。生徒の実態に合わせ、話して伝える、書いて伝える、どちらも可能です。事前に「評価のポイント」、「評価に使えるような英語表現」を指導しておくことで、活動が流れやすくなります。

⇒ピアから見た自分のエッセイの良い点、改善点を知るフィードバックを得られます。

⇒ピアから指摘を受けた英文の問題点に目を向け、英文の改善を促すことが可能です。



アクティブ・ラーニングの視点による授業改善のポイント

発問（エッセイ・タイトル）に対する自分の考えを整理し、相手に通じる英語で表現できるかを検証するための対話、論証文型の英文エッセイで求められる「複数の根拠」や「覆すべき対立意見」を発見するための対話を設定しましょう。これにより、教室で英語を使う場面を増やすだけでなく、生徒が適切な表現を用いて、より客観的で説得力のあるエッセイを書けるようになることが期待できます。